

(例) 残土処理量算定表

(参考))

土質: 礫質土 (85%)  
軟岩Ⅱ (15%)

平成〇〇年度 〇〇〇〇 工事 その〇〇 搬出先: 〇〇港埋立地A 運搬距離L=〇〇KM

所屬	搬出先への運搬		月 日												① 運搬回数	②(m <sup>3</sup> /台) 実績積載量	①*②(m <sup>3</sup> ) 運搬量
	種別	車番	9/15	9/16	9/17	△△	〇〇	10/22	10/23	10/24	10/27	10/28	10/29	10/30			
直営 青山班	10t積	10-23	青山和義	9	9	8	9	10	7	9	8	9	190	6.1	1159		
	10t積	12-34	高橋重雄	5	5	6	2		6	6	7	5	140	5.8	812		
	10t積	23-34	鈴木実		8	7	9	6	7	7	7	9	135	6	810		
	10t積	34-15	高本新平	5		8	5	5	6	6	5	5	78	5.7	444		
	計			19	22	29	20	21	14	21	22	28	543		3225		
直営	10t積	12-32	吉田和	5	9	8	7	7	7	9	8	6	105	5.7	598		
	10t積	21-07	安他工事	7	6		7		5	7	7	9	120	5.9	708		
	10t積	20-14	清田真一	8	7	8	7	7	8	7		87	6.2	539			
	10t積	01-50	熊野忠雄	7	9		6		7	7	9	5	82	6.2	508		
	計			27	31	16	13	14	27	23	24	20	394		2353		
下請 福井組	10t積	23-02	東山春雄	5	6	7		6	5	7	9	8	65	6	390		
	10t積	34-12	獅子無耶	6	9			5			7		55	5.7	313		
	10t積	45-23	南川昭雄	7	8	7		6	9	5		9	74	5.8	429		
	4t積	45-30	棟南西北	8	7		8		8	5		8	80	2.4	192		
	計			26	30	14	8	17	22	17	7	25	274		1324		
合 計			72	83	59	41	52	63	61	53	73	1211		6902			

※ 1 ダンプの実積積載溶量は一回の検側ではなく、複数回の検側により平均積載溶量により算出する。又写真の管理も行う。  
(積載重量、積載溶量に規制があるので注意のこと。)

2 ダンプの回数は伝票や日報等で整理する。最終的には、地山換算で処理量を計上する。

3 土質の変化率は考慮のこと。実際には土質ごとの運搬量は分別できないため、土質の変化率は各土質舞の変化率を設計計上の残土処分量の比率により、平均変化率を想定する。  
(変化率=1.2\*85%+1.4\*15%=1.23)

参考記載例

地山換算の実残土処理量 6,902m<sup>3</sup>/1.23=5,611 ≒ 5,610. > 設計の残土処理量 5,550m<sup>3</sup>

